教育かわら版

こんにちは教育委員会です ふたたび

No.１４３
令和２年５月７日発行
今金町教育委員会の会

我慢して頑張りましょう!

役場庁舎の駐車場に子どもたちの声が聞こえました。散歩か、見学でしょうか。下を見ると、こども園の子どもたちでした。やっぱりいいです。街中に子どもの姿や声が響くというのは。

４月。束の間の学校再開でした。大変心苦しく思います。

一方で、普段なら心ときめくはずのゴールデンウイークも、行事黒板の文字表記を赤色から黒色に変えようかなあ、という気分にまでなってしまう自分がいました。

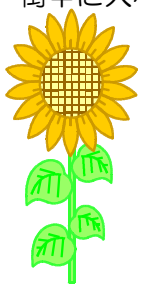


今は耐えるときです。

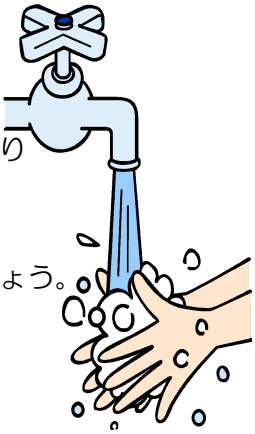
外出も控えなければなりません。収束の日をただただ心待ちにして。

空気を普通に吸える幸せ。人と向かい合って語り合える幸せ。友だちと手を繋いで遊べる幸せ。重苦しさからの解放。

その時こそ、思いっきり勉強して、思いっきり運動して、思いっきり部活動や少年団をして。街中に人々が繰り出して。



賑わいと復活を楽しみにして。



だから今は、我慢しましょう。そして手洗いの励行を。

教科内容の履修については、できる限りの手立てを学校と共にとりながら、子どもたちに不利益がないようにと考えてまいります。

とにかく今は健康第一。

学校再開後、元気に全力で取り組めるよう。みんなで頑張りましょう。

雨雲の上には太陽があります。



すべての人に感謝　ただ感謝



この間、様々な団体、個人の方々から子どもたちへと手作りマスクを頂戴し、各学校・こども園・保育所・学童保育へとお渡しさせていただきました。

学校が再開したときには、カラフルで心のこもった手作りマスクをつけた子どもたちが、明るく街中を歩くことでしょう。

危機管理の基本は状況把握・分析と確認。そしてぶれない判断だと考えます。

この間は、以前にも増して、町長部局や道教委・教育局、現場の学校長たちと報告・連絡・相談ー確認を重ねてきたつもりです。

未知のウイルスに対して、日々変化する状況の中で、国や道の通知も何月何日現在でと刻まれて流れてきます。

先も想定しながら、覚悟をもって町教委としての方向性をお示ししてまいりたい。そう考えております。信頼、共感。見守ってくださっているすべての方々に、改めてただただ感謝。

東北や神戸の被災地がどんな学校再開対応をしてきたかが参考になります。頑張ります。

教育委員からのメッセージ

今　このときに

『思いのほか短い子育て、親子関係を密に』

教育長職務代理　田中　稔

「教育長・教育委員広報」ほぼ５年ぶりの寄稿となります。田畑をおこす事は慣れていますが文章を起こす事は大変です。教育長の思い、熱意を受け、委員の一人として時おり駄文を届けたいと思います。

今般新型ウイルス感染防止のため、一斉休校ほか様々な行動制限、外出自粛等の長期化で、家庭内では親も子もストレスが相当溜まって来ていると思います。

子は可愛いのですが時にはわがままで手間が掛かります。

長い人生、子育ては過ぎてみれば思いのほか短い期間です。

特に「おとうさん」、仕事上も社会的にも中堅・中核でお忙しいと思いますが、子どもは年と共に友人関係や部活、勉学を優先し、自我が確立されます。小学４～５年生までに意識して、精神的にも物理的にも「密な関係」を築きましょう。後々の親子関係の土台と成ります。

今金は自然豊かです。ちょっと街を離れて、親子で散歩、ジョギング、サイクリング、ドライブ。山、川、緑の木々、風の音、野鳥のさえずり、様々な山野草。

田舎は自然がいっぱいです。ただし、他者との距離に留意！　ヒグマに要注意！！



『すこしだけ・・・大きくなろう！』

教育委員　小野嘉代子

長いお休みの期間、友達にも会えず、外出も限られるなど、今までにない経験をされていると思います。

この機会に、休校が明けて学校のお友達と会える時には「少しだけ大きな自分」になっていると良いかなと感じます。

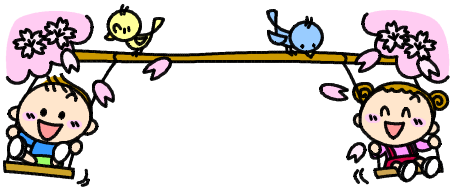
“読書は頭のビタミン”と言われていますが、日ハムの栗山監督も選手の方に強く読書を勧めています。

米大リーグの大谷選手についても次のように語っています。

「翔平の部屋は本であふれている。人間性・人間力が上がると野球は本当にうまくなる」と。

野球に限らず他のスポーツや勉強・趣味など、自分がやりたいと思う事のステップアップになるかと思います。

休み前の自分と比べて「少しだけ大きな自分」になれる事を、目指してみませんか？



『未来を生きる子どもたち』　　教育委員　船木　恵

先日、「人間は生死が問われる危機の時、生きる『よすが』となる言葉が必要」という新聞記事を目にしました。そこで想い出したのが、オードリー・ヘップバーンが二人の息子に伝えた詩でした。

「魅力的な唇になるために優しい言葉を話しなさい。愛らしい目を持つために人の良い所を探しなさい。（略）大きくなった時、きっと自分にも二つの手があることを発見するだろう。一つの手は自分を支えるため。もう一つの手は誰かを助けるため。どうか沢山の素晴らしき日々が訪れるように」

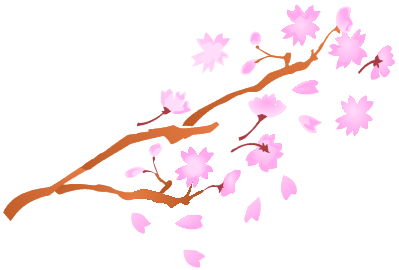
春になり、子ども達はどんなに学校へ行くのを楽しみにしていた事でしょう。それでも健気に我慢している姿に、子ども達が笑顔でいてくれることに「ありがとう」を伝えたいですね。

これからは今とは異なる価値観や文化のあり様も変わるかも知れません。

たくさんのキーワードを通して、子どもたちと心の通い合う会話の時間を大切に一緒に前へ向かって行けたらと思っています。

この困難な歳月にあっても私たちを支えて下さる人々への感謝を忘れずに「強く、優しく」（NZ首相の言葉ですね……）、そして意志を持たないウイルスに疲れることなく、少しでも早く現状に苦しむ人々にとって安心の時が訪れるのを祈るばかりです。

そして、子どもたちはきっと今の日々を通して、自分を、他者を大切にできる大人に成長するのだなあとエールを送る毎日です。

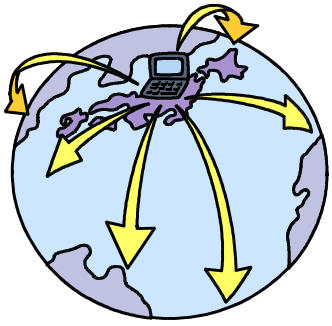


『今金っ子たちへ』　　教育委員　永井　章

今、何をしていますか？

勉強？　ゲーム？　寝ている？・・・
それとも、何もしていない？

まさか2020年がこんなことになるなんて
誰も思ってもいなかったですね。
でも、ちょっと考えてみてください。



何かをしていても、していなくても、
時間はどんな時も過ぎていきますね。
このような時は何が出来るのでしょうか？

このコロナ禍で何がしたいか、何が出来るか、
みなさん一人ひとりの考える時間を
作ってみてもいいんじゃないでしょうか。
将来の目標を見つける時間にして欲しいと思います。

そして、みなさん

今、何がしたいですか？